

## 絵はがき、錦絵の「金沢八景」

友人から届く絵はがきに心躍る。100 年前を生きた人々も同じ感情を抱いていたかもしれない。

私製はがきの作製が 1900 (明治 33) 年に認可されると、着色写真をはじめとした多様な絵はがきが発行され、「金沢八景」も描かれた。

洲崎 (すさき) の青嵐 (せいらん)、瀬戸の秋月、小泉 (こずみ) の夜雨 (やう)、乙鱸 (おっとも) の帰帆 (きはん)、称名 (しょうみょう) の晩鐘 (ばんしょう)、平潟 (ひらかた) の落雁 (らくがん)、野島の夕照 (せきしょう)、内川の暮雪 (ぼせつ)。1694 (元禄 7) 年、明の心越禅師が能見堂で詠んだ漢詩を元に、その後、安藤広重の手により錦絵にもなる。

関東学院大学はその金沢八景の中に位置しており、本学図書館は戦前の「湘南の山水郷金沢八景」、「金沢の風光」、「金沢八景絵葉書」など数種の絵はがきや広重の「金沢八勝図」(絵はがきサイズ小型版)も所蔵している。風光明媚 (めいび) だったこの地も宅地開発が進んだ今、校舎から臨む風景との対比が興味深い。

(初出「神奈川新聞」2014 年 7 月 28 日付)



本学図書館貴重資料 『金沢八勝図』